



上関

未来通信

No.2
通算314号

発行 平成22年8月11日

豊かな町を原電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

温泉、まつり、産直市、 集客拠点は「道の駅」

相生市は、明治40年に創立された播磨船渠（現IHII）の企業城下町として発展してきた都市です。過去数度の造船不況やバブルの崩壊による経済危機がありました。近年では長崎から伝わったペーロン祭、温泉や産直市などを軸にしたまちおこしを行い、観光客を増やしています。今回はこれらの拠点となっている道の駅「あいおい白龍城」取材しました。

地元企業をつくらう

相生市にはバブル期に大リゾート計画がありました。エーゲ海をテーマにしたホテルやリゾート施設の整備、『ブラジル村』の建設構想などです。ところがバブルの崩壊によってこれらの構想はほとんど実行不可能になってしまいました。同じ頃、造船業にも構造不況の波が押し寄せ、IHIIも人員整

マにしたホテルやリゾート施設の整備、『ブラジル村』の建設構想などです。ところがバブルの崩壊によってこれらの構想はほとんど実行不可能になってしまいました。同じ頃、造船業にも構造不況の波が押し寄せ、IHIIも人員整



長崎を経て伝わった中国文化をイメージした中国風の外観



海に面して広い窓が設けられた大浴場



近隣の海産物をメインにしたお勧めメニュー「海鮮定食」



来場者の要望を生かした産直市

理を余儀なくされてしまいました。こうした状況を打開するため、市では新規地場産業の創出に取り組みました。まず行ったのが、レジャー施設やレストランなどを運営するための会社の設立です。そして、バブル期に計画されていた構想の一部、温泉施設とレストランの建設に取りかかりました。平成9年、レストランを併設した温泉施設「白龍城」が完成。この年の総利用者は19万5千人を数えました。

利用者の数は数年間横ばいで推移しました。平成13年、関係者はさらなる来場者の増加と経営強化を図るため、施設を『道の駅』として登録しました。この時、申請条件である24時間利用できるトイレや情報コーナー、休憩所の整備とともに、来場

者から要望が多かった「特産品販売所」「産直市」の設置にも着手。翌年の完成とともに来場者は増え続け、平成21年度の総利用者数は41万人を超えるまでになりました。平成19年には、施設に面した海岸に一般利用者も係留できる桟橋がつけられ、『海の駅』にも登録。現在では全国でも珍しい「道」と「海」を兼ねる駅として大勢の利用者に親しまれています。

組み合わせで相乗効果を狙う

杉本清一 駅長にうかがいました

「道の駅」「海の駅」のメリットはどんな点でしょうか？

杉本 ● 知名度が大きく上がるため、集客には効果があるでしょう。ただ、「海の駅」は直接的な集客というより、船や釣り関係の雑誌で紹介されるPR効果という役割でしょうか。

― 直売所を設置されていますが、出店者や運営について苦労された点はありませんか？

杉本 ● 出店者の募集が一番苦労しましたね。最初は13人しかいませんでした。私自身が生産者を訪ね、協力を求めたこともありましたが、そのうち売れることがわかってくると、増えてきて、現在では290人（団体）に出店してもらっています。

また、生産者と直結した「産直市」ですから、一般的なスーパーとは違う特徴を出さなければなりません。値段もあるでしょうし、こちらから要望してつくってもらえる商品も必要でしょう。やはり「お互い励まし合



「海の駅」の一般利用者用桟橋



温泉のボイラー室で駅長の杉本清一氏の説明を聞く

いながら一緒にやってく」という姿勢が大切だと思います。

― 特産の海産物としてはどんなものがありますか？

杉本 ● 相生は冬場の力キが最大の特産品です。1月には力キまつりなども行われ、多くの来客があります。しかし「産地に来たら良い品が安い」と思ってもらわなければ、常連客になってもいけません。そのためにも生産者の協力が重要だと思います。

― PRには工夫をされていますか？

杉本 ● とにかくマスコミに話題を提供することです。報道や情報番組として取り上げてもらうのはタダです

※2/白龍（パイロン）を語源とする細長い船で、両舷に並ぶ漕ぎ手により櫂を使って進む。ペーロン競漕は明暦元年（1655）、長崎港で唐の船が暴風雨に襲われて難破し、その時の溺死者が魚に食い荒らされないよう海面を騒がす目的で始まったとされる。



① 毎年5月に行われる『相生ペーロン祭』のペーロン競漕

明治後期、国が造船を基幹産業として推進していたことが、相生の造船所創立に結びつきました。このとき大量にやって来たのが、長崎の造船技術者たちです。もともと長崎には中国から伝わった「ペーロン競漕」の風習がありました。これが造船技術とともに相生に伝わったのです。

伝統の祭りを盛り上げよう

「温泉の経営状態はいかがですか？」
杉本 ● 温泉は難しいですよ。見落としがちですが、施設の維持管理や更新の費用がかなりかかります。初年度以降は固定客が中心になりますか

から。いろいろな取り組みを一生懸命やって、それを情報として流せば取り上げてくださいよ。



道路の隙間に生えた大根として全国的に有名になった大根「大ちゃん」も、PRに役買っている。

「打開策はありますか？」
杉本 ● 複合施設ですからそれぞれを巧く組み合わせ、全体として集客を増やす仕掛けが必要です。刻々と変化していく社会情勢を分析し、地域に合った新しさを次々に考えていかなければならないでしょうね。

ら、来場者の増加も見込めません。周辺に同様の施設ができればそちらに流れます。当施設でも最盛期には1億円くらいあった売り上げが、今は半分くらいに落ち込んでいます。

ペーロン競漕は、当初は造船所の関係者だけが行う祭りでした。しかし昭和30年代の造船不況で継続が困難になったため、市などが協力して「ペーロン協賛会」が発足。昭和61年から一般のチームも参加できる『開かれた祭り』になりました。

発祥である長崎市との交流も行っています。5月に行われる『相生ペーロン祭』の競漕で上位入賞チームを、8月初旬に長崎で行われる『全国ペーロン選手権大会』に派遣。このほかにも、各地で行われているペーロン競漕への参加や、競技の運営指導などをを行い、交流の幅を広げていきます。



② 長崎の競漕に出場するチームの練習風景

「今後の目標は？」
西角 ● ペーロン競漕は盛り上がるイベントですから、全国に広まっています。市の祭りになって50年余りですが、こうした各地の競漕開催地と連携しながら、長崎に次ぐペーロンのまちなしたいと思っています。



③ ペーロンアドバイザー西角義一氏（左）と相生市商工観光係の桑名雅彦氏（右）

「ペーロンの保管庫を道の駅に併設した目的は？」
西角 ● 競漕が行われる海に面した場所的な条件と、祭りがこの辺り一帯で行われるため、道の駅が拠点になりPR効果が高いことです。夏場は観光客の体験乗船も行っています。こうした受け付け窓口としても、道の駅は有効に利用できます。

「ペーロン祭を盛り上げるため、競漕以外に何か行っていますか？」
西角 ● 前夜祭として花火大会を開催するとともに、陸上バレーなども行っています。また、50年くらい前から中学校の野球やバレーボール大会を同じ時期に行い、祭りを盛り上げています。

海峡を眺望する温浴施設に

先の議会で、町民待望の「海峡温泉（仮名）」について、今後の建設スケジュールに関する質問がありました。答弁によると「今年秋ごろから造成を始め、冬前に着工、来年の完成を目指して計画を進めている」とのこと。

いよいよ実現に向けたカウントダウンが始まりました。

かみのせき
まちづくり
NW
役場で聞きました



温浴施設のイメージイラスト（イメージなので変更の可能性があります）

〈取材を終えて〉

相生市は規模こそ違いますが、上関との共通点の多い都市です。瀬戸内海に面した立地で、そこにつくられた温浴施設や道の駅、伝統の祭りなども巧く組み合わせ、集客の仕組みをつくっています。また、地場産業の育成にも成功しています。こうした仕組みづくりは、上関町でも参考になる事例ではないでしょうか。



相生市には関西電力の火力発電所があり、隣接町には放射線医療を研究する粒子線加速器（SPRING-8・スプリングエイト）をもつ播磨科学公園都市もあることから、エネルギーと放射線研究のまちとしても知られています。取材当日は、発電所前面の海で長崎の競漕に出場するチームが練習を行っていました。



四代正八幡宮秋祭り

空からおじゃましま〜す



歴史と伝統 息づくまち

江戸時代には海上交通の中継地としての役割を担い、藩の出先機関「宰判」が置かれていた四代地区。高台にある四代正八幡宮には、嵐に遭った大名船が避難した際お礼に植えられた桜の子孫が育っています。10月の例祭は、神輿が海に入り、無病息災を祈願する「神輿くぐり」も行われる伝統の祭。美しい自然の中で、歴史と伝統が息づく地区です。



2009.9/24 撮影

丸山・白浦・白浜

2009.10/15 撮影



空からおじゃましま〜す



「鳩子の海」の故郷
昭和49年4月からNHKで放送された「鳩子の海」は、上関でもロケが行われたことで有名です。このうち海岸のシーンは白浜地区で行われました。冬に夏のシーンを撮影したため、俳優や撮影スタッフが暖を取り休憩するために、地区をあげて協力したそうです。今は沖に消波ブロッタが設置されて様子が変わっていますが、美しい海は地区の人々の自慢です。

「鳩子の海」収録には大勢の見物者が集まった

特産品づくり 応援 プロジェクト

町内グループ工夫の逸品、 水軍まつりで一斉に発表!!

今年の水軍まつりでは、町内の各団体が開発した特産料理が人気を集めていました。その数は、試験販売が2種類、試作品としての無料配布が2種類の計4種類です。それぞれを紹介しましょう。

鯛寿司とフライ盛り合わせ

おなじみ県漁協上関支店の定番料理。鯛をテーマにした料理の改良を続けており、夏は「鯛寿司」、それ以外の季節は「鯛めし」として販売しています。少しづつ工夫を加え、味も進化しています。今年もほとんどが事前の予約で売り切れました。



山口県漁協上関支店女性部の
フライ盛り合わせ(左・200円)
鯛寿司(右300円)



鯛寿司は例年通り上関支店1階で販売



のほりも新調された

瀬戸貝めし

県漁協室津支店の女性部が得意としている「瀬戸貝めし」は、水軍まつりでは初めての販売です。最高のダシが出る瀬戸貝を炊き込んであり、味は折り紙付き。

山口県漁協室津支店女性部の
瀬戸貝めし(400円)

涼しげな色合いの「関びわアイス」(無料)

関びわアイス

試作品なので、昼と夕方それぞれ100食分を無料で配り、アンケートに答えてもらいました。味はおおむね好評で、料金の設定次第ですぐにも商品化できそうです。



生改連の若手グループ「アップル」が開発した「びわシロップ漬け」と「びわソース」を使ったアイスクリームです。

はもソーメン

県漁協室津支店の青年部と県漁協室津支店青年部が協力した「はもソーメン」は、ハモの卵をダシに絡めたもの。山口県が普及を進めている「西京はも」のPRにも一役買っていました。



「西京はも」も無料で配られた
アント前には大勢の人が並んでいた



室津勤務



副所長
鶴田 裕一郎 さん

上関原子力発電所
護岸工事共同企業体
(五洋建設)



安全専任
川口 民雄 さん

上関は「海と山に面したきれいな町」と聞いていただきましたが、訪れたことはありませんでした。昨年6月に赴任してきて1年あまり。そのきれいな風景の中、近所の方々と良い関係を保ちながら、気持ちよく過ごさせていきたいと思います。

意外だったのは、反対運動が強く長く続いていることです。このため工事が再開できず、もどかしく思っています。今は工事がいつ再開してもいいように、周到な準備を進めているところです。

私たちは護岸工事を担当します。ある程度の期間がかかると思いますので、今後ご理解とご協力をお願いします。

島根原子力発電所3号機の安全担当として約6年間、現場の安全管理を行ってきました。そちらがほぼ終わったので、昨年8月に上関に赴任してきました。

上関は古くから海の交易拠点だったということで、歴史を感じる静かないい港町ですね。しかし、これからは静かなだけじゃなく、活気あふれる町になってほしいと思います。

今は妨害行為で工事が中断していますが、先日、再開を願う方々による『総決起大会』が開かれ、私たち工事関係者も心強く思っています。一日も早い工事再開を望んでいます。

Welcome かみのせき



事務所の敷地ではゴーヤやナス、トマトなどをプランターで栽培されています

●今回は、これから上関にできる温浴施設「にぎわい広場」とよく似た施設を持つ相生市を取材しました。温泉ではポイラー室も視察。管理費や設備の更新費用についても伺い、いろいろと学ぶことができました。(K) ●上関町では、現在室津に計画が進んでいる温浴施設をはじめ、これから様々な施設ができていきます。私たちはこうした施設を利用するだけでなく、守り、育て、盛り上げていかなければなりません(I)

後記